

令和 6 年度 政策討論会 第 3 分科会（第 5 回）要点記録

- ・日時 令和 6 年 11 月 22 日（金）
- ・場所 議会会議室
- ・会議時間 10：00～10：37
- ・出席者

中井 良介（座長）
井舎 英生（副座長）
藤原 豊和
海老原 友子
倉田 賢一郎
南 加代子
友永 修

- ・欠席者
殿本 マリ子

（座長、副座長以下は議席番号順）

- ・議事内容

○「岸和田市讃歌」への今後の取り組みについて

- ・中井座長より横浜市 HP により紹介されている「横浜市歌」についての情報提供があった。「横浜市歌」は、プロ野球球団の横浜 DeNA ベイスターズのゲーム中など様々な場面で使用されており、森鷗外作詞、当時の謝礼は 100 円であったようである。

○今後のまとめについて

発言要旨

●友永議員

- ・他市事例として、神奈川県横浜市を紹介していただいた。

横浜市では、明治 42 年、横浜港の開港 50 周年を記念して作詞作曲された。市立小学校で教材として取り上げられ、市立小・中・高等学校、市立大学の入学式・卒業式などで歌われているほか、開港記念式典や二十歳の市民を祝うつどいなど、さまざまな行事でも歌われ、100 年以上にわたり歌い継がれ、市民に親しまれてきたことを知った。やはり、市歌を聞く場・機会がさまざまな場面であることが親しまれてきた理由だと思う。岸和田市においては、市の讃歌があること、また、マドカホールの合唱祭で歌われてきたことも知らなかった。やはり、岸和田市においても讃歌を聞く機会が

増えれば、知らないうちに岸和田市讃歌の認識が高まり愛着もわいてくるのではと感じてならない。それが、郷土への誇りにも繋がると考える。強制的に岸和田市讃歌を歌うべきだと提言するのではなく、聞く機会・歌う機会を設けてみてはどうかとの提案書としてまとめてみてはどうかと考える。

●南議員

・市制施行 50 年という節目に岸和田市讃歌が誕生したことは本来なら意義深いものだが、市民への認知が足りない状態でお蔵入りしてしまった感は否めない。当時の市民が築き上げたまちを更に発展させていくことを願いたい。そして、あらゆる機会を模索し讃歌を聴く機会が増えることや、合わせてこの歌が作られた経緯などに目で見えて触れる機会もあれば、現在市制施行 100 周年を迎えた本市が次世代に継承できる文化と歴史のひとつになると考える。

●倉田議員

・横浜市の事例では、横浜市歌が作られてから小学校の教材として扱われ、小中高校、大学の入学式卒業式で歌われており横浜市民に根差したものとなっている。一方で岸和田市讃歌については市制施行 50 周年記念事業として作られてからの経緯がよくわからない状況で、時間の経過とともに忘れ去られたようになっている。

・提言書をまとめるにあたっては、まず岸和田市讃歌が岸和田市としてどのような位置づけなのか、岸和田市歌にあたるようなものなのか確認が必要だと思う。

●藤原議員

・市歌について横浜の事例を拝見したが、過去から長く親しまれてきたとのことで、制作から半世紀ほどほとんど認知されずにいる岸和田市讃歌とは状況が異なるように感じた。参考にするのであれば、本市と同様にゼロから市歌を普及させた事例を探していきたい。

・本討論会のゴールについて、様々な取り組みが課題に対しての手段だと考えると、市讃歌の普及が何に対しての手段なのか、またその目的に対して他に有効な手段がないのかなどを検討してみると、この取り組みの必然性や有用性が明確化されるのではないかと考える。

●海老原議員

・分科会として「市讃歌」に特化してきた経緯が不明確になってきており、かなり無理があるように思う。観光の視点ではなく、文化的資源発掘、再発見という中でたまたま、「市讃歌」に出会ったが、「市民憲章」をはじめ「〇〇宣言都市」など、本市が

掲げているいくつかの明文化されたものがある。今更それに触れることは難しいかもしれないが、それらの経緯や意義を発掘し、市民に知らせたい思いはある。

●井舎議員

- ・議員が、マドカ合唱祭などで歌うのが良いと思う。

●中井議員

- ・讃歌をまとめるようにしたい。

以上